

2006年 エクステリア新商品展示会



3月29日の静岡を皮切りに、大阪、東京、名古屋の3会場で、新商品展示会を開催。今回は「空の下に 自在空間」を統一テーマに、キメ細かい提案でご案内しました。

それぞれのゾーンで、空の下に広がる空間をもっと自在に活用するための、魅力的な商品群を揃えました。販店様様の反応も上々で、熱心に商品をご覧いただいたり、開発担当者に質問されたりといったシーンがあちこちで見られました。とくに新カテゴリ「ムーテリア」の新型シェードには、大勢のお客様の関心が集まり、熱気と意欲にあふれた展示会でした。



テーマゾーン

- ムーテリアゾーン
- スペース提案ゾーン
- 住宅様式ゾーン
- 戸建(GEX、WEX)ゾーン
- PEXゾーン
- 提案ゾーン
- 施工ポイント紹介コーナー
- 御庭番コーナー



三協アルミニウム工業(株) 代表取締役 川村社長の挨拶

新商品をしっかり勉強してお客様に説明・提案してほしい

三協アルミニウム工業と立山アルミニウム工業は、6月1日をもって統合事業会社として新スタートを切ります。この厳しい業界で勝ち残るために一番大事なのは、新商品の開発です。昨年11月の「日経アーキテクト」における購読者アンケートでは、「業界をリードする新商品開発」の5つのうち3つに弊社の製品が選ばれ、そのうちの1つは立山アルミとの合同開発商品でした。そのように、我々にはそれなりの開発力がありますが、統合を機に総合力を発揮して、さらによい商品を開発し続けていかなくてはなりません。そして展示会では、その新商品をしっかりと勉強し認識して、お客様にきちんと説明し提案していただきたいと思ひます。



ムーテリアゾーン

「空の下に 自在空間」より高品位な自在空間を、さまざまに具現化して提案・提供!

自在性の高い「新型シェード」で生活スタイルに合わせたマルチ空間を提案

「空の下に 自在空間」というコンセプトの実現に向け、新しい商品カテゴリとして誕生した「ムーテリア」。そのフラッグシップ商品となる「新型シェード」がお披露目されました。展示サンプルは、10mのワイドスパンで開放感ある大きなシェードと、中央からシンボルツリーが飛び出したシェードで、前庭・アプローチ・パティオ・カーブスペース・花壇など、家族の生活スタイルに合わせてマルチに使える空間を提案。その自在性は、プレート自体が強度をもつ構造体「プレートトラス」の技術によって、はじめて可能になったものです。もちろんU.S.スタイルで培った、建物や敷地の形状に合わせて設置できる自在性も備えています。現在は試作段階で、発売は秋になる予定です。



屋根の中央に穴をあけ、シンボルツリーを飛び出させたユニークなプラン。こういう自由な形状をつくれるのもトラス構造ならではの。

ムーテリアのデモンストレーションを大勢のお客様が熱心に注目



ムーテリアゾーンの一角では、映像を使ってムーテリアのライブ・デモンストレーションを行い、ムーテリアというカテゴリや、新型シェードの特徴・使い方を具体的に説明。お客様の関心も非常に高く、つねに大勢の方々が集まって熱心に視聴されていました。

会場でお聞きしたお客様の声

「新型シェード」に感嘆!

「いいねえ! 屋根が明るいし軽い。いろんなところに应用できそうだな」「ガレージ兼アプローチとか、狭い敷地も有効に使えるね」「折半屋根と同等レベルという施工性のよさがいい! 使ってみよう」



(株)景匠館 営業・千田弘子様、デザインセンター・山岡由佳様、藪内良子様
「シンプルモダンでおしゃれ。公共的なイメージもあるので、個人邸以外にも、幼稚園とか公園、ショップなどにも提案できそうですね」



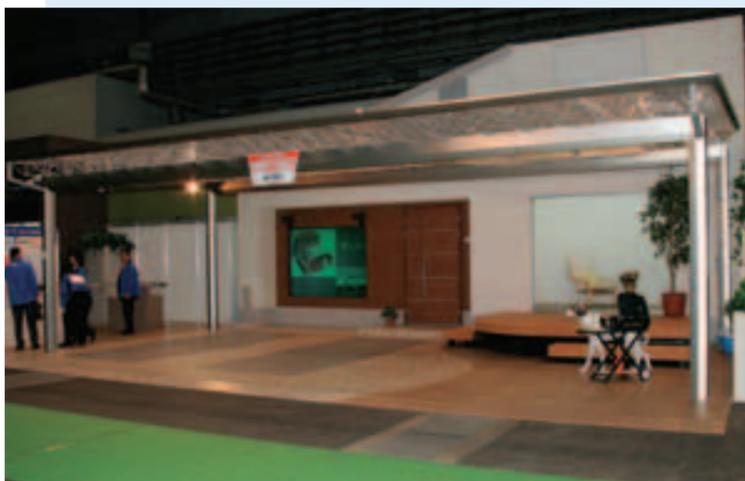
(有)畑造園土木 代表取締役・畑俊一郎様

「モダンな家のファサード部分によく似合いそうですね。限られた土地を有効活用したいというお客様のご要望も多いので、たとえばガレージとアプローチを兼用するなどして使いたいですね」

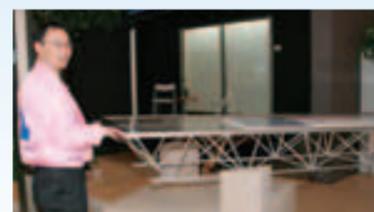


(有)エクステリアアルファ 代表取締役・菅谷文雄様

「第一印象は、大きい!面白い!でした。トラス構造を屋根に使うというのは斬新な発想で、視覚的にも新しく、車2~3台が一挙に収まるのも魅力。大きいのに施工が簡単なのもいいですね」



10mのワイドスパンで開放感のある新型シェード。前庭であり、玄関アプローチであり、家族が集う団場の場であり、駐車場でもある多目的なスペースを演出。



新型シェードの屋根ユニット。パネル(ポリカ)を組み込んだプレートトラスはアルミ製なので非常に軽く、このユニット全体でわずか30kg。

柱・梁は「HDコート」で耐久性がさらにアップ

柱・梁の表面は、HDコート(高耐久電着塗装)で仕上げているため、従来よりも耐傷付性が約2倍、耐候性が約30%もアップ。このHDコートは「カムフィネオ」にも採用されています。



サンプルをこすって実験。従来の塗装面(左)に比べ、HDコート(右)は傷が付きにくい事を体感。

開発担当者が語る「新型シェード」

プレートトラスを屋根に使うのは画期的強度計算にはかなり苦労しました

「新型シェード」開発のきっかけは?

大石 事業部コンセプトの「空の下に 自在空間」を実現するため、「ムーテリア」という新しいカテゴリ向けの商品を開発することになり、まずは「庭を屋根でおおって、もっと有効に使おう」ということで、デザイン室や企画グループと、われわれ設計担当でチームを組んで、去年10月ごろからスタートしました。こうしたい・あしたいという理想と、やれる・やれないという技術面・コスト面の間で、何度も話し合いました。

――屋根の形状がユニークですね。

大石 技術開発本部から技術提案されたもので、プレート自体が強度をもつ「プレートトラス」という構造体。軽くて強度があるのが特徴です。この構造体を屋根として使うのは画期的だと思います。



エクステリア商品開発部・商品開発1課 大石主任(左)、村井主任(右)

――柱や梁にも特徴がありますか?

村井 デザイン的には、柱と梁の接合部をナナメに額縁状にして、より一体化した感じを出しました。強度計算はかなり厳しかったですね。トラス構造の屋根が軽いとはいっても、10mもの間口を4本の柱で支えるためには、かなりゴツイ柱や梁にしなければならぬ、そうなるとうまく施工が難しくなる。そこで、梁にトラス構造を応用して軽くすることにしました。

――お客様にどう使っていただきたいですか?

大石 とにかくお客様の理想をかなえる為「自由」に提案して頂きたいですね。村井 この商品をきっかけに、今まであまり活用していなかった場所を有効活用していただけたらうれしいですね。